

# ウオッチング 多摩ニュース

第77号

2016年8月22日  
ウオッチング多摩の会

## これでいいのか、パルテノンの 80億大改修計画

なぜかオリンピックピックまでと、  
どん進行中

「やるべき」とは他にも」注文続出

W会市民討論会

「えっ80億? 知らなかったな。税金でしょ。そんなに使って何をやるのうって言うの?」。周囲の人にパルテノン多摩改修の話を持ち出すと、たいていの人がそう反応した。年配者の中には「もちろん借金するわけだよ。子や孫が返すのかね」。どちらも、ごく当たり前の反応だろう。今年度の市予算が成立して5ヶ月、今になってはまだ、そういう反応の多い市のパルテノン大規模改修計画はしかし、疑問の声をよそに8月中にはもう3回目の基本計画策定委員会を開き、具体

化に向けてどんどん進行している。

そのような市のやり方に「ちよっと待った!」と「ウオッチング多摩の会」(Wの会、神津幸夫代表)が問題を提起した。7月発行のニュース76号でこの問題の特集し、

8月11日には市民に呼び掛けてそのパルテノンの会議室で討論会を開いた。今号でお知らせするのは、その討論会の内容である。「運営に毎年数億円、それに80億も加えて維持していくことがほんとに妥当なのか」「まず存続か廃止かの論議を」「やるべきことは他にも多い」「生活に密着した設備に手を加えるべきでは」。発言や注文の数々はいずれも市の改修政策には厳しかった。(Wの会・半田拓司)

### 画一化から多様化へ

この日は猛暑続きの中で、やや気温が下がって過ごしやすい日だった。それでもリオでは五輪大会の真っ最中、甲子園では日焼けしたたたくさんの高校生が炎天下で懸命に白球を追っていた。家においても面白そうなTV放送が楽しめる休日なのに、討論会には53人の市民が集まった。中には多摩市副市長、東

## 特集

### パルテノン多摩

### 大規模改修

京都議、多摩市議数人の顔も見えた。神津代表に聞くと「間違ったデータを出すはず。そのためにも副市長には声を掛けた」。そのせいだろう、市役所からはほかに職員が何人か、もちろんシャツ姿で最後まで付き合ってくれた。

討論は堤香苗(キャリア・ママ代表)さんの総合同会で始まり、2部に分かれて3時間続いた。1部は全体会議、2部は分科会論議である。

1部では進行を担当する神津さんがまず「この問題で

市民発の話を  
する場が欲しかった」と会の趣旨を説明した。「行政も議会もいろんな発信はしているが市民の受け取り方との間にズレがあると思っ

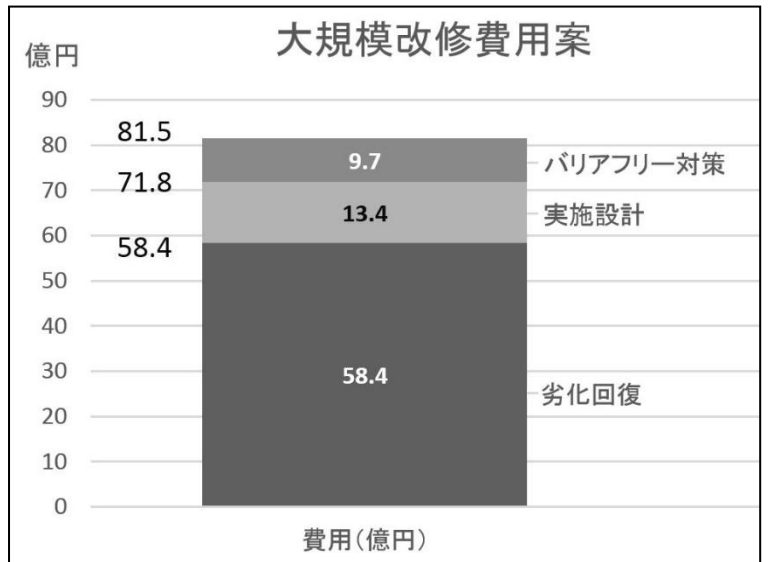


いたからだ」。そして多摩市民の現状について、こういう話をした。

住宅を求めて移ってきたニュータウン(NT)第1世代は、ここに三、四〇年住んできて生活に多様な要素を求めるように変わってきているのではないか。多摩市の収入構造の変化の特徴にもそれは現れている。多摩市では近隣他市に比べてここ数年、固定資産税収入が市民税収入を上回る傾向を示しているのだ。この傾向はNTに寝るために帰ってきていた勤労市民が第一線を引き、ここで家族や地域との生活を楽しむようになったことを語っていると思われる。これも要求の多様化という特徴につながっているのではないか。となると、それまでのように住宅に大きく価値を認めてきた以上に「目に見えない資産」をどう作っていくか、に心が集まってくるだろう。パルテノン多摩はその拠点の1つになっていくのではないか。

**都市計画税が使えろ！**

討論会では次に、パルテノン改修の進捗状況、近隣他市の場合との比較、パルテノン改修費の増減の経緯などの説明が続いた。進捗状況では今年度予算に初期費用が組み込まれ7月には3人の学識経験者と5人の市民委員からなる「基本計画策定委員会」(委員



2016年3月市議会報告

長井本杉省三(日大教授)が発足、来年3月まで10回の会合を開いて基本計画を作り上げ建築費を確定して20年の東京オリンピックまでには工事を完成しようという。それが市の計画だ。近隣他市施設の改修費は立川市民会館一七・四億(14年改修)、武蔵野市民文化会館四五・二億(改修中)、相模原市民会館一一億(13、14年改修)。パルテノン改修費を80億円とすると、この中では武蔵野市民文化会館の改修費がせいぜい56%に当たるくらい。80億がダントツである。

改修費案の内訳は、多摩市役所の資料によ

ると、劣化回復に58・4億、実施設計に13・4億、バリアフリー対策に9・7億、計81・5億。改修費は3年前の市の提案によると39億4千万円だった。それが急に2倍以上になったのはなぜか。ここにこの計画の財源上のカラクリがある。都市計画税が使えようになつたのだ。この税は道路や公園、公共施設など都市計画事業の財源に充てるための目的税(多摩市民には固定資産評価額の0・2%)で、それまで新設や新築に限られていたのが、2年前から建物の改修にも使えるようになったのだ。

**公共施設見直し計画の解決を**

討論は神津代表が以上のような説明をしてから始まった。その際に神津さんは「今日はネガティブキャンペーンをするつもりはない。ポジティブに前向きに話をしたい」と要望した。しかし、その後「相次いだフロアからの発言は必ずしもその要望に沿ってはいなかった。厳しい意見が多かったのだ。」

最初に手を挙げたのは豊ヶ丘の住民で市の公共施設政策に詳しい人だった。パルテノン改修を含む市の公共施設政策を財政と内容という2つの面から論じ、基本的な疑問を投げ掛けて参加者から大きな拍手を浴びた。まず財政問題。市提案の統合・廃止を含め

# ちょっと待った! その80億円!

た公共施設の見直し計画は、全体で八百数十億円かかり90億円分が不足している、という。そういう中で「市の政策はパルテノンなどの大規模施設を温存して地域のコミュニティ施設をなくしていくというスタンスで極めて遺憾だ」と問題を具体的に指摘した。

地域の施設とは、例えば7館ある図書館を3館に減らすというようなことだ。「都市計画税が公共施設の改修に使えるようになったのなら、それでの90億円問題を解決するような財政プログラムを検討すべきではないか。それをパルテノンの改修に使うというのは政策として矮小化であり本末転倒で、まったくのご都合主義だ。都市計画税の使い方を90億円問題との関連で精査してそれを市民に提示すべきではないか」

内容面については、パルテノン改修の検討に着手した段階で既に70億とか80億という数字が出てきていたが、それは、バリアフリ

ーなどの新しい要素はあるにしても、改修計画が現状を基本にしているからだ、と新たな問題を出した。「公共施設が老朽化すると、たちまち財政問題が発生する。パルテノンやアクアブルーなどのような大規模施設の改修で多摩市の財政負担がきわめて大きくなるのは当たり前のことだ。これをどうするかという方針なしに公共施設改修のプログラムを出来ることからやる、みたいなやり方はきわめて安易だと言わざるを得ない」

## 図書館本館、アクアブルー、 福祉センター

また、パルテノンについての市の説明は「作ったときの理念に基づいて文化芸術の拠点、NTのシンボルだから改修する」の一点張り。この施設の維持運営に市は財政が厳しい中で毎年5億円も出して(最近では減らしてきている)が、きている。「市民の理解を得るべき施設として、これに新たに70億、80億を加えて維持を続けていくことが本当に妥当なのか」と豊ヶ丘の人は声を高めた。

さらに、それに加えて図書

市民15万人全員が  
ウォッチャーであり  
サポーター!

館の本館を建てようという計画もある。「これには50億、60億かかるとも言われる。アクアブルーも総合福祉センターも、いずれは大規模修繕の時期がやってくるだろう。そうなる何百億という金が将来かかってくることになる。パルテノンの改修はその1つなのだ。市民に相当の理解と同意を得てやるべきだし、それをしないとできないはずだ。討議と熟議の場に持ち込んでことを進めるべきではないか」

筋道が通って話が分かりやすかったことも、拍手がわいた理由の1つだったろう。市の答えを聞いてみたい気がしたが、神津さんが「市に答弁をさせる場ではない」と「個人参加」の市の職員たちには話を振らなかつた。

## 「存続か廃止か」の議論を

次に立った人が別の角度から、さらに基本的な論点を出した。「パルテノンの存続を前提にしてどうするかを議論する前に存続か廃止か、という論議があつていいのじゃないか」という提起だ。

この人は音楽好きらしくかった。そういう人が「コンサートのできるホールは、この辺には大小いくつもある。パルテノンがなければどこにも行けない、ということはない」と明快に言い切った。調布、立川、府中、町田、

相模原などのホールで「どこもみんな多摩市より財政規模は大きい」。そして「パルテノン改修に80億もかかるなら、ほかにやるべきことをやった方がいい」という意見は市民の中にも多いのではないか。やるべきことは地域の図書館の存続、待機児童や高齢者対策などいろいろとあつて、パルテノン改修問題は「そういう選択肢の中の1つとしてあるにすぎない」というのがこの人の判断だった。「存続か廃止か」という議論の出发点がその中から生まれてくるのは当然のことだろう。

そういう認識に立って、この人はさらにこの討論会の主催者の姿勢に疑問を投げ掛けた。「ちよつと待った、その80億円!」という討論会のチラシを見たときには「必ずしも存続を前提としているとは認められなかったが、ここにきて話を聞いてみると存続が前提になっていくように受け取られる」と司会進行者に顔を向けて「あのチラシは、まさかおとり広告だったのではないでしょうね」と皮肉な調子を込めて話を結んだ。

### 生活密着の施設に使おう

次は永山からの人だった。この人も「生活の場として住みやすいからここに住んできた。パルテノンに80億も使うなら、安心安

全のために橋はヒビ割れ手摺はサビだらけ、という生活に密着した設備に手を加えてほしい」と行政に注文を出した。

改修自体についても「なぜ東京オリンピックピックまでにやるのか」と疑問を投げた。オリンピックピックまでは「そ

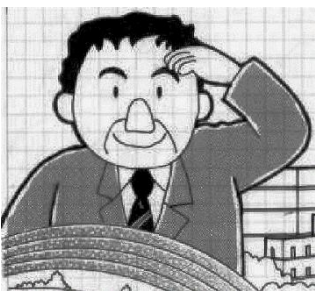
の東京も東日本や熊本地震の被災地も、いちばん金がかかる時期ではないか。そういう時期になぜやるか。81億5千万の金がかかるとして、これをオリンピックの後にやったらいくらになるのか、それまでにやらないと壊れちゃうのか」と市のやり方への疑問が次々に口をついた。「公共施設の廃止や建て替えの問題でも優先順位はどうなっているのか。学校を廃止する場合も廃止した後何にするのか、そういう全体像がよく見えてこない。何ごとも決定した後で話がいろいろと出てくる。メッセージが市民にはなかなか届かない。計画は市民なしで推進されているのか」と問い掛けという形の行政批判が続いた。「パルテノンより生活密着の設備に」とい



う意見はこの後に述べられた。そしてこの永山からの参加者は「文化施設は必要だろうが、どうしてもここになくちゃいけないとも思わない」とも言ったのだった。

次の発言者も「主催者に聞きたい」と話を始めた。「この集まりで出てきた市民の声をどうまとめ実現していくのか、それだけの覚悟があるのか。行政に政策提言するなら議会も巻き込んでやるくらいの気があるのか、その姿勢を聞きたい」。パルテノン問題については「15万に満たない市民の中で、こんな金食い虫みたいな場所が本当に必要なのか。もつと立川、八王子、町田と連携して広域行政という観点でやっていけばいいではないか」

この主催者への問題提起に対しては神津さんが多摩市自治基本条例にある住民投票の規定を持ち出して説明した。「こういう計画がいつの間にか立てられ知らないうちに進んできている。それでいいのか、という意識はある。この問題で選択肢をいくつか掲げて住民投票という形で行政に反映させたいという希望は持っている」



## 改修公共施設は全廃してみる

次に手を挙げた人は「こういう会合には初めて参加した」と言いつつも「改修時期に入った公共施設はこの際、全部廃止してそこからスタートするべきではないか」という、分かりやすい議論を展開した。「廃止によってどんなメリットがありどんなデメリットがあるのか、それが市民生活に及ぼす影響が大きいのか、それほどでもないか、改修はそれによつて考えるべきだ。個人の家であれば収入に見合つたりニューアルしかできない。当たり前前のことだ。多摩市は収入の見通しが無いのに、いいあんばいに金が使えるようになったから、ということらしいが、そういう問題ではないはずだ」

この人はこの「改修施設全廃」論の前に別の観点から次のように問題を出していた。「改修時期に入った公共施設は、作ったときの目的に合つて利用されてきたのかどうか、そういう議論がまずあるべきだろう。それが継続すべきかどうかという議論の大前提ではないか。そういう議論もなく最初から改修ありきで、都市計画税がリニューアルに使えるようになって、その途端に元気になるなんて冗談じゃないですよ」。そして「パルテノンの改修費80億と年5億の維持管理費を回せば、例えば多摩市の待機児童はゼロになる



はずだ。政策として何を優先させるか、というのではないか」

### 1度じゃ終わるまい、

### 2度も3度も

第1部の最後に永山から来た人が立つて「これまで聞いていると、今日暑い中をここにきている人たちは多摩市の宝で中核になる人たちだと思う」と言い始めた。「市の重役さんがいらつしやるようだが、そのことをきちんと認識してほしい」。そして「この問題は今日1日で終わるような問題ではないし、そう考えている人も多いだろう。市は中

核のこの人たちが大事に扱って、こういう会を継続的に2回、3回と開き知恵を絞ってもらうことがぜひとも必要だ。それによつて市民の大多数を満足させることができるようになるかもしれない」。(拍手)

この人は次に、計画の市の進め方をかなり手厳しく批判した。基本計画策定委も事業者選定も「既に決まっています、今は既にああしまししょうしまししょう、という段階ではないに違いない」。しかしそれを、誰がいつ決めたのか。「最初の段階で市はなぜ、ザックバランに市民に問い掛けなかったのか。われわれは詳しいことをまったく知らなかった。これでは民主主義とは言えない。この段階になつて初めて資料を見せるようではどうしようもない。そうなるとわれわれも大人だからイチャモンを付けるのは大人気ないな、という気になつて10言うべきところを7くらいで抑えちゃうこともある。実はそれを狙っているんじゃないかと思うほど市の態度は凶々しい」(笑い)。



そしてこの永山からの参加者は発言の最後に「基本原則から始めよう」と提唱した。パルテノン「文化ホールとしての価値をゼロから、われわれの生活にどう関係するのか、と考えるところから始め

る。われわれも市も、同じように問題点を考えながら前に進んでいこう。問題が出てきたら、こういう会をまた開いて話し合う。それがほんとの民主主義というものではないか。この提言にも拍手が沸いていた。



### 「責任は市民にあり」と

#### 市は見ている？

神津さんがこの発言を受けて「市は手続きだけはきちんと踏んでいる」と市側に立ったような言い方で別の問題を出した。計画を立てアンケートを取り、ワークショップなどを通じて市民に説明する。「仮にそのプロセス

が形骸化しているとしても、やることはやっている」

そういうプロセスに関して「われわれは市に任せ過ぎではないか」と神津さんは言った。「パルテノンの改修が強烈なインパクトを持ったのは、80億が表面化したからだろう。誰がいつ決めたんだということになった。だから今回のプロセスは行政としては市民の方に責任があると思っているんじゃないか」

神津さんはそう言いながら「市長も議員もわれわれが選んだ」と2元代表制と代議制の問題点について改めて強調した。

### 行政への疑問、注文に終始した

第2部では十数人ずつ3つのグループに分かれて討論を継続した。3グループとも1部での議論を引き継いだ形でもっと密な話ができただった。主催者側の裏話をすれば、この分科会方式で論議するテーマは、1部の全体会合の中から拾う予定だった。それがうまくいかない場合も想定して、あらかじめいくつかのテーマを用意しておいたのだが、どれもこれもそれまでの会場の議論と雰囲気にはなじまなかった。第1部の討論が右に報告したように、多くの場合基本的・原則的な見方で語られ行政への問題提起や疑問

や注文に終始したからだった。

グループ論議はまとめ役のW会会員によって全体会議に次のように報告された。まず、まとめ役からメモで届いた分科会報告から紹介する。次の4点が全体の共通認識だった。

「行政側の説明努力がなされておらず、寝耳に水の感があり。そもそもパルテノンは本当に必要なのかとの、原点からの論議を市民と時間をかけて論議するべきである。箱物は金をかけるだけ維持費もかかるという当たり前のことを行政は噛みしめるべきだ」

「都市計画税が使えるようになったからといって、パルテノンに30—40億円もの上乘せするなんてとんでもない。直下型地震に備えて橋の整備のほうに優先課題ではないか」

「時期的にも二〇二〇年オリンピックを控え建設資材、人件費の高騰は始まっており、仮に改修に市民の合意が得られたとしても、オリンピック後の方がベターであろう。その間、時間をかけてそもそも論から論議をしたい」

「この問題は大きな問題であり、市議員選挙で立候補者の考えを問いたただす機会を経るべきである」

## 不安感や危機感が生まれた

隣のグループでは話し合いが「運動論っぽく」展開していったのが特徴だった。「こんなことをいま話していても有効なのか」という発言がそのきっかけになった。「3月の市議会から一斉に動いたという印象がある。動きがきわめて速く、どういう形でストップがかけられるか、という気にさせられる」という不安を伴ったある種の危機感が「運動論っぽい」展開を促したようだった。

このグループにはたまたま市議が2人加わっていた。その市議も議論に入り「議会が市民と一緒に動くことは可能かもしれない」という話になった。しかしそれには「市民の声が上がらないと、議会だけでやるのは難しい」という留保が付き、これについては「市民の声といっても具体的な形にしないとう

まくいかない」との意見も出た。何も変わらぬこのままいつ「来年3月に計画が議会で承認されてしまえば、もう手が付けられなくなるのではないか」という声も上がった。ここにも行政に素通りされる不安感と危機感が顔を出していただろう。

もう1つのグループには市の副市長が出ていたからだろう、「計画についての市の説明は不十分だ」「いや十分に説明している」という全体の会合では聞けなかったやり取りがあった。市はこの80億改修計画を説明不足とは考えていないようだ。これからもこのままどんどん進めていくつもりだろうか。

パルテノン改修をセンター地区の活性化につなげようという考え方については、この地区を全体的に盛り上げ、賑やかにするにはサンリオと三越に頑張ってもらおうしかない、という話になった。この2つに逃げられないように全面的に支援したらどうか、という声まで上がったほどだ。80億改修よりその方が実際のだ、ということか。

改修時期についてオリンピック前になぜやるのか、という話がここでも出た。これについて「市の説明をきちんとしてほしい」という要望が出されたが、市側からの答えはなかった。

## 行政への不信感

改修パルテノンはどうなるか。その中身については、先述のように基本計画策定委員会の議論が続いている。7月中旬に2度開かれた委員会の論議を傍聴した神津さんが、この討論会の最後に「何だかパルテノンの使い勝手をこうしてくれあしてくれ、というような話ばかりしている」と策定委への不満を語った。パルテノン多摩はどうあるべきかというような「根本的なテーマの議論はどこにいつているのか。今日の議論でも、ゼロベースからのクリアスタートという声が多かった。80億も出していくから立派な施設を作っても、市民がそこに行ってみようという気にならないければどうにもならないではないか」

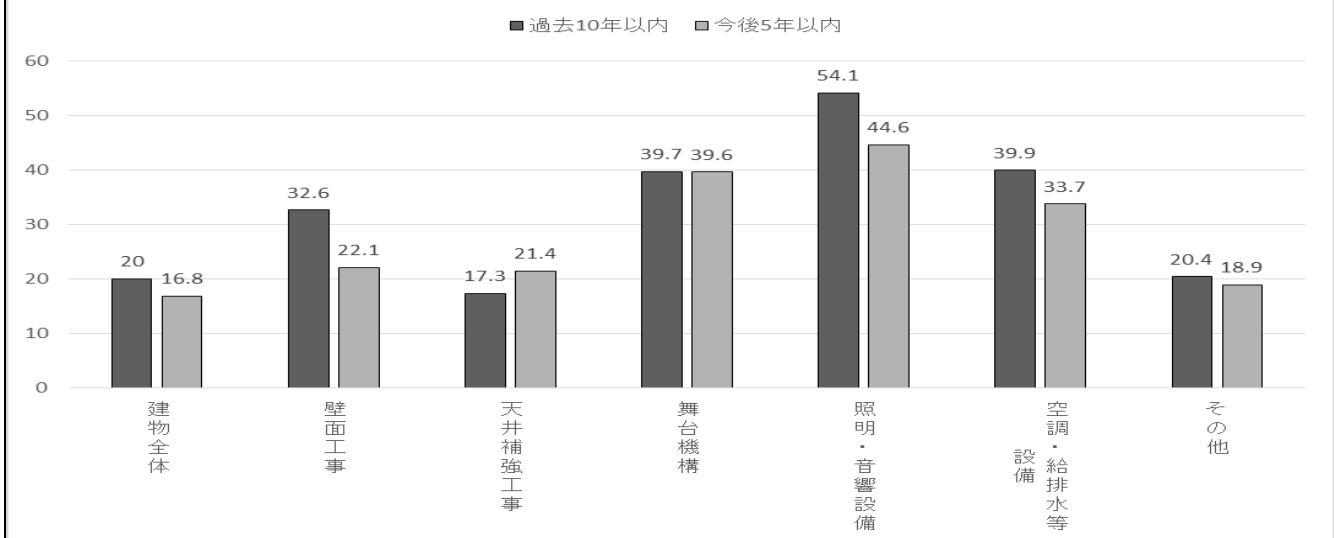


市は基本計画の論議に市民代表を加え市民から意見を集めワークショップを開き、流行の「市民参加」という形をこれからも取りつつ、しかしプロジェクトはどうやら「説明不足」のまま計画通りに進め、なぜか4年後の東京オリンピックまで完成させるつもりのようなのだ。住民投票が語られ「2度も3度も討論の会を」と提唱されたこの日の討論や、住民からのさまざまな注目を市はどう聞くのか。分科会でのより密な話し合いの中で不安感や危機感が表面化し、話が「運動論っぽく」なっていったことや、4年後のオリンピックと3年後の市議選が(2年後の市長選ももちろん含むはずだ)同時に語られたことの根底には、そういう市のやり方への不信感が横たわっていたように思える。

### 大規模改修・修繕の工事箇所

全国にある音楽ホールの大規模改修・修繕で行う工事箇所は、建物全体が20%、17%と各地方自治体の財政状態を配慮していることがわかれる。照明・音響設備は54%、空調・給水塔設備は40%、舞台機構は40%、壁面工事は33%、天井補強工事は21.4%、その他は18.9%となっている。黒は過去10年以内、白は今後5年以内の改修工事、グレーは今後5年以内の

大規模改修・修繕の工事箇所



### 入会申込書

氏名  
住所  
電話・FAX  
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246  
「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫  
〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496  
HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費 2000 円を頂いております。

